

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

# マルホ皮膚科セミナー

2015年4月2日放送

「第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会①

大会を終えて」

弘前大学大学院 皮膚科  
教授 澤村 大輔

## はじめに

平成26年10月4日から5日の二日間で、第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会を、当教室准教授の中野創を事務局長として、開催いたしました。弘前大学主管では、昭和28年に初代教授の杉山萬喜蔵先生が第17回大会、昭和44年に2代帷子康雄教授が第33回大会、平成5年に3代橋本功教授が第57回大会、平成19年に4代花田勝美教授が第71回大会をそれぞれ開催され、今回は5回目となりました。前回まではすべて弘前市での開催でしたが、今回は新幹線も青森市まで開通したことや飛行場からのアクセスが良いことから、青森市で開催し、会場はホテル青森としました。会期中、700名を超える参加者が全国からお集まり頂き、無事盛会のうちに終了できました。また、口演発表は101題、ポスター発表72題とたくさんの演題をいただき、発表していただいた先生に感謝申し上げます。



### 3つの特別講演

本学術大会の目玉は、3つの特別講演でした。特別講演1では、米国の Philadelphia にある Jefferson 医科大の Jouni Uitto 教授に、「Clinical Implications of Molecular Diagnostics in Heritable Skin Diseases」のタイトルで御講演いただきました。Uitto 教授の教室には、当教室から初代の野村和夫先生に続き、私澤村、玉井克人大阪大学教授、石川博康先生、今淳青森県立保健大学教授、当教室の中野創准教授、松崎康司講師が留学し、当教室とは深い関係があります。Uitto 教授は、遺伝性皮膚疾患の権威であり、とくに今回は、表皮水疱症のあたらしい診断法や治療法について詳しくお話ししていただきました。最新の知識に触れることができ、有意義な講演となりました。

#### 特別講演

Jouni Uitto教授



特別講演2は、韓国のテグにある Keimyung 大学の Kyu-Suk Lee 教授と Jae-Wei Cho 准教授に、それぞれ「Experiences of Common Skin Diseases in Nepal」と「Scar Prevention using Laser Combination Treatment」の題目で御講演いただきました。Keimyung 大学皮膚科と弘前大学皮膚科は、1994 年以来、姉妹校の関係にあり、Keimyung 大学の皮膚科の先生もよく弘前に来られ、また当教室からもよくテグを訪れています。Lee 教授は、先生が数十年来継続してきたネパールでの診療について、お話しいただきました。スライドから病院がすごい山岳地帯にあることが推測されました。また、Cho 先生からは、先生が特に力を入れておられるレーザー治療についてのお話で、レーザーとステロイドの局注により、効果的に癬痕形成が抑制されるという画期的な講演でした。

特別講演3は、柔道家の野村忠宏選手に、「折れない心」というタイトルでお話しいただきました。野村さんは、アトランタ、シドニー、アテネ、オリンピックで、3回連続で金メダルを取られた伝説のアスリートです。野村さんが弘前大学医学研究科の大学院で学位をとられた際に、たまたま学位審査をしたのが私で、その縁で講演をお願いし、快く引き受けていただきました。野村さんは中学や高校時代は柔道がすごく弱かったのです。しかし、大学になってから本腰をいれて練習に打ち込むようになり、すぐに大学在学中にオリンピックの代表選手になり、金メダルを取った話を聞き、天才は違うなと感じました。

### シンポジウム、教育講演、企業共催セミナー

今回も、多種多様のシンポジウム、教育講演、企業共催セミナーをお願いいたしました。

シンポジウム1の「わかりやすい遺伝性皮膚疾患」では、最近注目されている遺伝性皮膚疾患について、専門の先生にお話しいただきました。また、シンポジウム2の「難治な皮膚

病を治すコツ」では、日常診療で苦勞する、陥入爪、脱毛症、疣、白斑を取り上げました。さらに、シンポジウム3の「分子標的薬と皮膚科診療」では、最近よく使われる分子標的薬の特徴、皮膚障害などについて、各先生にまとめていただきました。

また教育講演を、現在ホットな皮膚疾患について、さらにダーモスコピーなど新しい診断法について、それぞれの専門の先生に熱い解説をお願いしました。会場はたくさんの先生で熱気に満ちていました。

企業共催のセミナーでは、2日間で、1共催シンポジウム、7ランチオンセミナー、3イブニングセミナー、4スイーツセミナー、2モーニングセミナーを行い、多くの企業に御支援いただきました。この場を借りて、感謝申し上げます。

### 大学間の垣根を越えた CPC

毎年東部支部で恒例となった若い先生を集めての、「大学間の垣根を越えた CPC」では、コメンテーターの安齋眞一と原田研先生、司会の金子高英先生が、楽しい企画を演出され、非常に好評でした。いろいろな標本から若い先生が病理診断をひねり出すわけですが、難しい症例も多く、CPCに参加された若い先生はもとより、いまさら人に聞けないおじさん、おばさん先生も大変勉強になったと思います。ちなみに、CPCで優勝を獲得したのは、信州大の枝光、山梨大の富田、旭川医大の沼田の各先生のチームでした。



### 学会賞

東部支部では、若い先生の発表を鼓舞するために、各種の学会賞を用意しております。今回、東部支部学会賞（副賞10万円）は2題、Best Clinical Poster Awardは「木村氏病様病変を伴った全身性形質細胞症の1例」を発表した、弘前大の黒川先生に、また Best Scientific Poster Awardは「GATA2 遺伝子変異を認めた generalized verrucosis」を発表した、群馬大の栗山先生が、それぞれ受賞しました。

さらに、学術大会会長賞（副賞5万円）は、東部支部からは、岩手医大の井上先生、東京支部からは、東京医科歯科大の新井先生、中部支部からは、近畿大の内田先生、西部支部からは、岡山大の原本先生が受賞されています。

また、今回の学会では、日本皮膚科学会「皮膚科の女性医師を考える会」企画のメンターとメンティの相談会、さらに平成 26 年度日本皮膚科学会東部支部企画の、研修講習会も併催されていました。

## 懇親会

さて、懇親会が土曜日の夜に行われましたが、この学会が3年前に弘前大担当に決まってから、多くの先生から、青森県の大間のマグロを懇親会で振る舞うようにと、強く強く、要望されました。そこで、マグロの大解体ショーを企画しましたが、大間には大きなマグロを入れておく保存用の冷凍庫がなく、学会直前に釣り上げるしかなく、すごく心配しました。

懇親会の大間のマグロ



しかし幸運にも、開催2日前の漁で120 kgの、脂の乗った大マグロを津軽海峡でゲットでき、学会でも皆さんに食べていただくことができ、なんとか先生方の期待に応えることができました。

今回の学会の運営事務局については、平成 26 年 4 月に日本皮膚科学会の島田理事長の肝入りで発足した日本皮膚科学会の総会・学術大会チームが初めて担当した、支部総会となりました。山田紀子さんが中心となって2年、細かいところまで配慮が行き届いた学会運営で大変助かりました。また、お財布にもやさしかったことを、ここに強調しておきます。

最後になりましたが、本学会に参加いただいた会員をはじめ、講演やシンポジウムの講師や座長の先生方、東部支部の評議員および学会運営事務局の皆さま、共催頂いた企業の方々、弘前大学の同門会の先生方の御尽力に、会頭として熱く御礼申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。